

矢板市の魅力を伝えたい!

たかはらさくら青年会議所

矢板市内でのイベントの開催や各種行事へのボランティア参加など多岐にわたり活躍をしている「たかはらさくら青年会議所」は、昨年で設立四十五周年を迎えました。記念すべき年の第四十六代理事長 永森千裕さん(右)と、今年の第四十七代理事長 白石盛人さん(左)に、それぞれの思いをお聞きしました。



●青年会議所はどういった活動をするのですか
青年会議所は、より良い社会づくりを目指し、ボランティアや地域課題に積極的に取り組んでいます。二十歳から四十歳までという年齢制限を設けているのも、青年の情熱を結集し社会貢献することを目的に組織された団体だからです。
たかはらさくら青年会議所は、全国で五百五十番目に設立された矢板青

●理事長を終えての感想
どうしても矢板市は那



●今年の理事長としての抱負は
私のテーマは「挑戦」です。昨年までの数々の活動において、青年会議所の会員含め参加者の一人ひとりが発信者となり矢板市の良さを伝えてきました。今年さらには、何を伝えられるのか、そのために何をすべきなのかを考え、「知られていないことを知ってもら

●四十五周年を迎えての気持ち
昨年は総勢十四名の会員の皆さんと活動してきましたが、四十五周年は特に意識していません。自然体で行こうと考えていました。私の思いを全員に伝え、何を取り組むべきかを考え伝えてきました。

●矢板市への思いは
子どもの頃は矢板市が好きという感情しかないと思うのですが、高校生になり、その後、進学就職するにつれ矢板市に対しての思いが薄くなっていくように思います。私自身、父の職場で父が働く姿を見るまでは、まさか親子で同じ仕事をするとは思ってもみませんでした。

子どもたちに地域を知ってもらおうことで、これからは「矢板市が好き」という思いがかわらねばと思っています。

●なぜそこまで精力的に勤めるのですか
青年会議所は、仕事以外のことで人が本気になる団体だと思っています。私たちはそこに魅力を感じています。その中で声をあげ、会員の皆さんと協力しながら実行していくことに楽しさを感じています。過去は七十人くらいの会員がいました。それを目標にこれからも楽しく活動していきます。(Y・S)

